

第5章 部門別戦略

農 産 ～生産性の向上による持続可能な水田農業の実現と落花生産地の維持～

《目指す姿》

【水田農業】

- ◆ 各地域において優良な水田が維持されるとともに、効率的な営農が展開されて、主食用米等が安定的に生産され全国に供給されている。
- ◆ 用途別の市場のニーズを捉えた、需要に応じた米等の生産（新規需要米を含む）が行われ、米価や稲作経営の安定が図られている。
- ◆ 気候変動に対応した品種や、病害虫・雑草の効果的な防除技術が普及し、米が安定的に生産されている。

【落花生】

- ◆ 生産性の向上により落花生の作付面積が維持され、ゆで豆用の生落花生など、多様な用途での落花生の出荷が拡大し生産者の収益性が向上している。



コンバインによる水稲の収穫作業

生産量国内シェア8割を超える県産落花生

成果
目標

経営面積50ha以上の稲作経営体数

52
経営体
(令和6年度)



81
経営体

第5章 部門別戦略【農産】～生産性の向上による持続可能な水田農業の実現と 落花生産地の維持～

1 水田農業の持続的発展

《現状と課題》

- ◆ 高齢化や担い手の減少が進んでいるため、担い手を確保・育成し、規模拡大を進めるとともに、経営規模に応じた効率的な営農ができる体制の整備や、生産性の更なる向上を図る必要があります。
- ◆ 作業の省力化を図るため、ほ場の大区画化や汎用化を進めるとともに、耕作しにくい排水不良や小区画のほ場等が荒廃農地とならないよう、耕作条件の改善などの取組を進める必要があります。
- ◆ 乾燥調製施設等の老朽化対策や、農業水利施設の長寿命化などを進め、機能の維持・向上を図る必要があります。
- ◆ 長期的には主食用米の国内需要が減少すると見込まれる中、引き続き、水田を有効に活用しながら、事前契約に基づく生産など実需者と結びついた取組等の需要に応じた生産を図る必要があります。
- ◆ 気候変動や病害虫・雑草の被害により、米の収量・品質の低下が見られることから、安定生産に向けた取組を進めていく必要があります。

《主な取組》

(1) 効率的に営農できる地域体制や基盤条件の整備

- ◆ 効率的に営農できる地域の体制を整備するため、「地域計画」に基づく担い手の明確化や、農地の集積・集約化を進めるとともに、集落営農組織等の新たな担い手の確保・育成や水田を担う経営体の円滑な経営継承を支援します。
- ◆ 老朽化した乾燥調製施設等の共同利用施設の再編整備を進めるとともに、スマート農業に対応したほ場の大区画化・汎用化や、耕作条件の改善等の農地整備、土地改良施設の維持管理と農業用水の安定確保を図ります。
- ◆ あわせて、地域の共同活動による水田及び周辺環境の維持・保全を図ります。

第5章 部門別戦略【農産】～生産性の向上による持続可能な水田農業の実現と 落花生産地の維持～

1 水田農業の持続的発展

《主な取組》

(2) 経営規模に応じた効率的な営農体制の整備

- ◆ 意欲ある認定農業者等がしっかりと生産に取り組めるようにするため、生産性の向上に必要な施設・機械の導入や、省力化・低コスト技術の普及を図ります。
- ◆ 経営規模の拡大に対応した栽培技術や、労働力確保等の経営管理能力の向上を支援するとともに、労力を補完する農業支援サービスなどの活用を支援していきます。

(3) 米の安定生産と本県の特徴を生かした米づくり

- ◆ 気候変動の影響に適応しながら良食味・高品質な米を生産するため、高温耐性を備えた品種の育成・普及や夏の高温対策技術の開発・普及、病害虫・雑草の効果的な防除対策の普及を進めます。
- ◆ 東日本一の早場米産地である本県において、消費者や実需者に選ばれる米づくりを推進するため、栽培方法の実証や米の食味等の分析を行うなど、良食味・高品質米生産を目指す取組を支援します。また、県産米を販売する量販店、小売店を確保するための取組や有機農業など地域の特徴を生かした取組を支援します。

(4) 実需者のニーズ等需要に基づく新規需要米の生産

- ◆ 米の用途別の需給の変動にも柔軟に対応できる産地を育成するため、地域をけん引する担い手が取り組む米の輸出拡大や地域の実需者と連携した飼料用米やホールクロップサイレージ用稲（以下「WCS用稲」という。）、米粉用米等の生産を支援します。



ドローンを活用した水稲の追肥の実演

第5章 部門別戦略【農産】～生産性の向上による持続可能な水田農業の実現と 落花生産地の維持～

1 水田農業の持続的発展

《主な取組》

(5) 汎用化したほ場における 麦・大豆・飼料作物・園芸品目の生産性の向上

- ◆ 団地化・ブロックローテーションの実施や、営農的排水対策技術の導入による麦・大豆・飼料作物等の安定生産を図るとともに、水田の畑地利用による飼料作物等の生産や、水田裏作による園芸品目の生産を推進します。

(6) 関係機関・団体と連携した 需要に応じた米生産の推進体制整備

- ◆ 令和7年(2025年)4月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」において、水田施策を令和9年度(2027年度)から根本的に見直し、作物ごとの生産性向上等への支援へ転換することが示されたことから、国の施策に対応した推進体制を整備するとともに、関係機関・団体と連携して県産米の需要拡大や消費者理解の醸成に取り組みます。

(7) セーフティネットへの加入促進

- ◆ 経営の安定を図るため、米の価格が下落した際などに収入を補填する国の経営所得安定対策や、災害や価格下落など不測のリスクに備える収入保険など各経営体に適したセーフティネットの活用を促進します。



水田での飼料生産(WCS用稲)

第5章 部門別戦略【農産】～生産性の向上による持続可能な水田農業の実現と落花生産地の維持～

2 落花生の振興

《現状と課題》

- ◆ 本県の落花生は、国内シェア8割を超える生産量となっているものの、生産規模の拡大に向けた機械化の遅れや販売価格の低迷等により、年々収益性の高い品目や緑肥等に置き換わり、作付面積が減少しています。作付面積を拡大していくためには、手間のかかる作業の省力化や、野菜の輪作作物として定着させるなど、生産体系の改善が必要です。
- ◆ 国産のシェア拡大に向け、販売面での高付加価値化などにより、従来の煎りざやに加えて、新たな需要を拡大する必要があります。



収穫した落花生を乾燥させるために作られる「ポッチ」

《主な取組》

(1) 生産の省力化の推進

- ◆ 落花生の産地を維持するため、は種機等の省力化機械の導入を支援するとともに、関係機関と連携して汎用乾燥機械などの実用化を進め、更なる作業の効率化を目指します。
- ◆ 落花生は、露地野菜等の連作障害を回避し、収量・品質の向上を図る輪作作物として有効な品目であることから、一層の生産振興を図ります。

(2) 新たな需要に対応した産地の育成

- ◆ ゆで豆用など、需要の拡大が期待できる生落花生の生産拡大を図るため、商品化に係る産地の取組を支援します。

(3) 関係団体と連携した需要拡大

- ◆ 令和8年(2026年)が本県に落花生が導入されて150周年となることを契機として、生産者や加工関係団体等と連携し、煎りざやに加え様々な加工品等を通じて落花生の新たなイメージを発信することなどにより、県産落花生の消費拡大を図ります。

第5章 部門別戦略【農産】～生産性の向上による持続可能な水田農業の実現と 落花生産地の維持～

3 主要農作物等（稲・麦・大豆・落花生）種子の安定供給

《現状と課題》

- ◆ 稲・麦・大豆・落花生(以下「主要農作物等」という。)種子生産者の高齢化や水稻種子の調製等を行う種子センターの老朽化が進んでいることから、主要農作物等の種子の安定供給に向けて、生産の効率化や施設・機械の計画的な更新が必要です。
- ◆ 落花生については生産者の種子更新率が低下していることから、県産落花生としての品質を維持するため、定期的な種子の更新を図る必要があります。



採種ほ場の審査の様子

《主な取組》

(1) 種子の安定供給に向けた生産・供給体制の維持・強化

- ◆ 主要農作物等の種子を生産者の需要に応じて安定的に供給するため、関係機関や県内種子生産者等と連携し、種子生産ほ場の集約化や、産地における種子生産体制の継続を支援していきます。
- ◆ 落花生種子は、機械選別を推進することにより、種子品質の均一化や種子生産コストの低減を図るとともに、落花生生産者に対して啓発資料を配布するなどにより、種子更新を促進します。

(2) 種子センターの計画的な再編・更新

- ◆ 水稻種子の安定供給に向け、県内5箇所の種子センターの計画的な再編・更新を関係機関・団体と連携して進めます。